バトルオブブレイズ～ラッシュ達の旅～

フォック・リザハート

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
バトルオブブレイズ～ラッシュ達の旅～

【Ｎコード】
Ｎ３３６３Ｙ

【作者名】
フォック・リザハート

【あらすじ】
とある３匹のリザードンがグラド地方というポケモンリーグが開催される地方へと訪れた、それを目指す一匹のリザードン、元ポケハン学園バトル部部長…ラッシュ、これはラッシュと仲間達のバトルと冒険の物語である。

※技・術：テイルズシリーズ＆オリジナル

プロローグバトル（前書き）

さあ始まりました！ラッシュ達バトル部の続編となる小説『バトルオブブレイズ～ラッシュ達の旅～』

エピローグでの布石でついに続編を書くことになりました！！

記念すべきプロローグバトル！！行くぜ！！

プロローグバトル

ここはモンスターなどが住む世界、モンスワールド

それぞれのモンスターが人間と同じように生活している

そして…新たな物語のページが…今開かれようとしている

……

ここはグラド地方の港町、ランドルーラ

いっそうの船がこの港町に上陸した、そしてハッチから3匹のそれぞれ同じ姿だが色が違うモンスター…ポケモンと呼ばれるモンスターが出てきた

顔は竜みたいでたくましい両翼に太い両足に二本の短い角、そのうちオレンジ色の体色の竜と黒色の体色の竜の両腕は筋肉質でクリーム色の腹も腹筋が割れて逞しかった、だが違ってオレンジ色の竜だけは傷が多くあり、右翼膜には傷が目立っている。ピンク色の体色の竜は頭に青いリボンをつけていて首には赤い宝石のペンダントをつけている。3匹のポケモンの種族名はリザードンと呼ばれるポケモンだ

リザードン「ふぅ～やっとついたな」

黒リザードン「ついに来たんだなラッシュ…サクラ…」

ピンクリザードン「そうね、どんなところなんだろうねラッシュ、

クロア」

3匹はそれぞれそう言う、まずは3匹の紹介しよう

まずオレンジ色の体色の体中傷だらけのリザードンの名はラッシュという…彼はポケハン町出身のポケモンで元ポケハン学園バトル部の部長である。鍛錬した肉体で色んなライバル達とバトルし、そしてリザードンには使えない波動を使えることができ、相手の気持ちなどを理解でき、技である波動弾を使うことができるリザードンだ

次に黒い体色のリザードンの名はクロアという、彼は元はバトル部のものではなかった…だがラッシュと大会でバトルして以来彼はラッシュの父であるリュウオによって養子となった、今はラッシュとは兄弟みたいなものになっている。彼自体…ラッシュがいなかったら変われなかっただろう…

そしてピンク色の体色のリザードンの名はサクラという…彼女はバトル部の一員だった者でラッシュとクロアの旅に同行している。理由はラッシュとの…あれらしい、彼女も好きな彼と一緒にいたい気持ちとかもある。彼女は回復術などを使うため修行もかねて来ている

ラッシュ「さて、まずは情報を集めて最初のジムが何処にあるのか聞いてみるか」

サクラ「そうね…じゃあ3人で行きましょう…どうせ離れたら嫌だし」

サクラがそう言う

クロア「いいのかそれで？」

ラッシュ「まあいいんじゃないか？どうせこの町の事俺達はわからないからな」

そう、彼等の目的はこのグラド地方各地にあるジムをめぐる旅…そしてこの地方にあるポケモンリーグに挑戦するつもりだ

ラッシュ「それじゃあ行こうぜ」

ラッシュ達3人は船を降りて港から町の中へ入った

……

サクラ「ひっろ～い！」

ラッシュ「うへぇ～こりゃ迷うな（汗）」

3人は広い港町を見渡す、レンガの家が多くラッシュ達も迷うほどだ、本当は空を飛んだ方がいいが生憎荷物があるため飛ぶことができない、そこに

「お前等？道に迷ったのか？」

一匹のポケモンが3人に近づく

両手が鋼鉄のドリルの形をしていて頭の先端部分はドリルの角、目つきは鋭く両頬に3本の赤い線がついていてモグラのような姿のポケモン、ちていポケモンのドリュウズだ

ラッシュ「お前は？」

ドリュウズ「いきなりでわりぃ、自己紹介するぜ、俺はドリュウズのライナ、道に迷っているなら俺が案内しようか？」

ドリュウズ…ライナが案内とかしてやろうと言う

ラッシュ「俺はいいがクロアやサクラはどうだ？」

ラッシュは二人に聞く

クロア「構わない」

サクラ「空飛んでだと荷物の重荷で飛べないそうだし…それならＯＫよ」

二人はＯＫのようだ

ラッシュ「そうだな…案内してくれるか？俺達ここに来たばかりなんでな」

ライナ「別地方のポケモンか…お安い御用さ、俺についてきてくれ」

ラッシュ達はライナに着いていった

……

ライナ「ついたぜ、ここがこの町のポケモンセンターだ」

ラッシュ達３人とライナはポケモンセンターについた、モンスターボールのマークがついている建物…これがポケモンセンターだ、こ

こは宿泊施設にレストラン…さらには病院やフレンドリーショップと連携しているので買い物や治療までできるのだ、ラッシュ達は中に入った

ラッシュ「すごいな」

中に入ると天井などは広く開放感あふれていた

クロア「俺達の地方はポケモンセンターにフレンドリーショップはなかったな」

サクラ「そうね、あたし達の地方はポケモンセンターとフレンドリーショップは別々だったしね」

ラッシュ達の住んでいる地方…ポケハン地方とは違うことにラッシュ達は驚く

ライナ「へえ～お前等の地方とは違うんだな…なあ俺もその話聞かせてくれないか？」

ライナは聞きたいとばかりに気になっている

ラッシュ「そうだな…ちょうど腹減ったから飯でも食いながら話すか」

そう言うとラッシュ達はレストランへと向かった

……

ライナ「うめぇ～♪」

ライナはかなりの量を食っていた

ラッシュ「すごい量食うな（汗）」

クロア「どこかのバカ竜と似てるかもな…」

ラッシュ達は唖然としている。

ライナ「すみません！おかわり！」

ラッシュ「まだ食うのかよ！？」

ラッシュはツッコミをいれた

それから数分後

ライナ「はあ～食った食った～♪」

ライナは満足そうに突き出たお腹をさすった

ラッシュ「よく食うなお前（汗）」

ライナ「ああ、まあ成長期ってやつかな～」

とそんな事を言う…年齢がわかっていないのに

サクラ「成長期ってあんたいくつよ？」

サクラはライナに年齢を聞く

ライナ「俺は今１５だぜ♪」

クロア「１５！？俺等より３つ違いじゃねぇか！？」

この姿で１５歳というのに驚きだ

ラッシュ「これで１５か…まあ成長期というか逆に大食いに思えるけどな（汗）」

ラッシュのいうとおり、成長期どころか大食いに見える感じだ

ライナ「まあ細かいことは気にするな♪」

笑顔でライナは言う

ライナ「それよりお前等の地方の話聞かせてくれよ」

ラッシュ「わかった」

ラッシュ達はライナの自分達の地方の事を話した

……

ライナ「へえ～あっちには別のモンスターとポケモンとかが共存していてさらに学校なんてあるんだ～俺んとこには学校とかなかったけどな」

どうやらライナがいるグラド地方には学校という存在はないようだ

ライナ「こっちは旅に出るのは１５歳ぐらいからなんだ…俺は旅に出たばかりでこの町からスタートしたんだ…まあこの町に来たことあるから大体はわかるけどな」

ライナはこの町に来たことあるため町の事はわかるようだ

ラッシュ「ところでライナは何処の町出身なんだ？」

ラッシュはライナの生まれ故郷の事を聞く

ライナ「俺の町はグルドラというところなんだ…俺は船に乗ってきたんだ、まあ親父とおふくろとここに来たことあるからわかるけどな」

自身満々にライナは言う

ラッシュ「そうか、さて！俺達はこれから最初のジムに行くつもりなんだ」

ライナ「へえ～ラッシュもポケモンリーグに出るんだ」

「ああ！」とラッシュは答える

ライナ「それならまず俺とバトルしてくれないか？」

ライナはラッシュにバトルを申し込む

ラッシュ「それは構わないが本気で行くが構わないか？」

ライナ「もちろん！バトルはそうでないとな♪」

ニカッとライナは笑顔になる

クロア「バトルフィールドに移動するか、外にバトルフィールドがあるからな」

ライナ「そんじゃ行こうぜ♪」

ライナははしゃぎだす、まるでまだ子供のような感じだ

ラッシュ「そんな慌てるなよ、行くからな」

ラッシュ達はポケモンセンターの外にあるバトルフィールドへ

……

バトルフィールドはシンプルな地面のあるフィールドだ、中心にはモンスターボールのマークが描かれている。

クロア「これより、ラッシュ対ライナによるポケモンバトルを始める、どちらかが戦闘不能になった時点で試合終了となる。二人共…OKか？」

ラッシュ「ああ、こっちはOKだ」

ライナ「俺もOKだ！」

ライナはワクワクしていた。これほどまでバトルしたいのかがわかる

ラッシュ「それじゃあお手並み拝見といこうか…」

ラッシュはファイテングポーズをして構える

ライナ「元バトル部部長の実力がどんなのか見せてもらうぜ！

ライナも両腕で構える

クロア「それじゃあ！バトル…開始！！」

ついにラッシュのグラド地方、最初のバトルが始まる！！

プロローグバトル（後書き）

ついにプロローグバトルを書けた～

ラッシュ（リザードン）「よっ！みんな久しぶりだな！ラッシュこと本名郷田ラッシュだ！」

クロア（黒リザードン）「色々心配かけてすまないな…クロアこと郷田クロアだ」

サクラ（ピンクリザードン）「みんな久しぶりね！サクラこと近衛サクラよ」

3色トリプルリザードンがそろうなんてね～

ラッシュ「作者がそうしたからだろ（汗）」

クロア「まあ俺をなんとかしてくれたのはこの作者だけどな」

サクラ「まあ作者もバカだけど感謝はしているわ」

なんかバカ発言多くね（汗）

ライナ「って！俺の紹介もしてくれよ～！」

お前はまだだめ、もう少ししてからだ

ライナ「え～」

え～じゃねぇよったく…というわけで次回はグラド地方最初のバトルとなります

ラッシュ「俺達もがんばるからな！またよろしくなぁ！！」

バトル１　グラド地方最初のバトル（前書き）

ついにバトルです

ラッシュ「油断できないな」

まあどうなるかお楽しみに、それでは記念すべきバトル１

ラッシュ「行くぜ！！」

バトル1　グラド地方最初のバトル

ライナ「ドリルライナー！」

ライナは姿をまるでドリルのように身を丸めて突進してきた体が宙に浮き、抵抗力をうむ

ラッシュ「（ここは避けるか）」

ラッシュは防げないと判断し、避けた

ラッシュ「火炎放射！」

ラッシュは避けた後から火炎放射を放つ

ライナ「守る！」

ライナは緑の膜を作り防いだ

ライナ「いわなだれ！」

無数の岩が上空に現れ、ラッシュに向かって降り注ぐ、炎・飛行タイプであるラッシュにはダメージ4倍を食らってしまうだろう…だがラッシュもそのぐらいではびびるポケモンではない

ラッシュ「はあああぁぁぁぁ！！」

ラッシュは気を溜める

ラッシュ「波動(はどう)！連拳(れんけん)！！」

青いオーラがラッシュの拳を纏う、そこから連続でパンチが繰り出された、岩は木っ端微塵に砕け散った

ライナ「す、すげぇ～（汗）」

ライナはいわなだれが砕かれたことに唖然とする。いやそれ以前にラッシュが強いというのを感じた

ライナ「すげぇ～すげぇ～よラッシュ！」

ラッシュ「ありがとな、ほらよそみすんな！」

ラッシュはライナの懐に入る

ライナ「なっ！？」

ラッシュ「行くぜ！燃えろ！気合の拳！」

ラッシュの拳が炎を纏いライナを殴りつける

ライナ「ぐわっ！？」

ライナは吹っ飛ばされる、だがラッシュはそこから

ラッシュ「竜の心を極め…限界を超える！」

青い球体と紫の球体の二つがライナに当たる、ラッシュは素早くラ

イナの懐に入る

ラッシュ「龍炎(りゅうえん)！波動撃(はどうげき)！！」

ラッシュの最大の炎と波動を込めたパンチがライナに直撃した

ライナ「ぐわあああああああああああああああああっ！！！！！！！？」

ライナは地面に叩きつけられ目を回してしまった

クロア「ライナ戦闘不能！」

ラッシュ「しまった！やりすぎだか（汗）」

ラッシュはやりすぎたと反省し、倒れてるライナの元へ

ラッシュ「おい！大丈夫か？」

ライナの状態の確認をするラッシュ、だがライナは

ライナ「いてぇ～やっぱつえぇ～なぁ～」

ライナはなんとか立ち上がる、鋼タイプのためかダメージを受けたような感じはしない…しかし

ライナ「腹がいてぇ～（泣）」

ライナは自分のお腹をさする

ラッシュ「わりぃ（汗）大丈夫か？」

ラッシュはライナに声をかける

ライナ「あ、ああ心配すんなよ、俺は平気だぜ♪」

平然とした笑顔で平気なのをアピールした

サクラ「でもライナも強いわね」

クロア「だがまだまだな部分もあるようだな」

こうしてバトルはラッシュの勝利でおさまった

……

ラッシュ「さて、ジムがある町へと向かうか」

クロア「ここからだとファイトシティが一番近いな」

ラッシュ達は最初のジムがあるファイトシティに目的地を決めた

ラッシュ「それじゃあ早速行くか」

ライナ「あっ！俺も一緒に行く！」

突然ライナが荷物をもって行きたいと言う

ラッシュ「いいのか？」

ラッシュはライナに聞く、ライナ本人は

ライナ「ああ！ラッシュみたいな奴もいるみたいだし、それに一緒にいたらなんかいいな～と思ってね…俺まだまだ経験不足だろうからラッシュとかに稽古つけたいからなあいいよな？」

ライナは甘えるようにラッシュ達に視線を向ける、するとラッシュは観念した表情で

ラッシュ「わかった、よろしくなライナ」

ライナ「よろしく！！それじゃあまずはファイトシティへ出発進行！！」

こうして新たな仲間ライナをむかえラッシュ達の旅は始まった…この先どのような事が起るのだろうか…そしてジムバッジを全部集めることができるのか！

バトル1　グラド地方最初のバトル（後書き）

まあ今回はあっさりな部分になってしまいすみません

ライナ「でも強かったな～俺も強くならないと」

ラッシュ「まあみっちり鍛えてやっからよ」←ライナの背中を叩く

ライナ「ぐほっ！軽くやってくれよ！」

ラッシュ「わりぃ（汗）」

次回はライナの特訓です。

バトル2　ライナの特訓（前書き）

ラッシュ「今回は短いぞ」

ではバトル2

ライナ「貫け！俺のドリル！！」

バトル2　ライナの特訓

一面が草原に包まれるここランド草原

サクラ「結構広いわね」

辺りは草のカーペットで敷き詰められている

ラッシュ「ここなら特訓にはちょうどいいな、ライナ、特訓始めるぞ」

ライナ「わかった！」

ライナは準備をした

……

草原広がるフィールドで二人は互いに目を合わせる…今から対峙しそうな雰囲気だ

ラッシュ「それじゃあまずはお前が覚えてる技とかだな」

ラッシュはまずライナの技をチェックすることに

ライナ「俺が覚えているのはドリルライナーにいわなだれ、あとはつめとぎと守るだけ」

ドリルライナーといわなだれと守るは前回使っていてあと一つはつ

めとぎらしい、つめとぎは攻撃と命中率をあげる技でドリルライナーといわなだれをさらに当てやすくすることができる

ラッシュ「なるほどな…つめとぎはなぜ俺とのバトルで使わなかったんだ？」

バトルの時ライナはつめとぎを使っていなかった、使っていればいわなだれを当てやすくできる…ドリルライナーは逆に飛行タイプをもっているラッシュには効果はない、それでも攻撃をしたのだからまだ旅立って間もないため相性がわかっていないのだろう

ライナ「いや…つめとぎするタイミングがなかったから」

ライナはそう言う、たしかにつめとぎする隙なら喋っている時でも使用できたのだろう

ラッシュ「だが攻撃技二つしかないのはちょっとな」

ラッシュは頭をボリボリとかく、バランス的にはいいが鋼タイプの技をライナは覚えていないことが気がかりだ

ラッシュ「鋼タイプも覚えて損はないとは思うが？それに遠距離系ももう少し覚えた方もいいな…今のお前では勝つのは難しい」

ラッシュは厳しく言う

ライナ「そんな…」

ライナは言葉を失う…

ラッシュ「だが特訓しておけばそれほどでもないだろう…まずは新技とかあとはオリジナル技も覚えておいた方がいいだろう」

ライナ「オリ技？」

オリ技とはオリジナル技の略で、自分で作った技を使うのだ…ただしそれは自分自身がその技を習得しなければならない…オリジナルだけあって考えるのは難しいのだ

ラッシュ「……というわけだ」

ライナ「なるほど～たしかに、考えてみるよ」

ライナは頷いた

ラッシュ「とりあえず休憩に入るとするか」

サクラ「特訓はいいの？」

サクラはラッシュに聞く

ラッシュ「少ししてからだ、まずはゆっくり休んでそれから技の練習だ」

ラッシュはそう言う、ライナに言ったのは基本的な事、いきなり始めるのは無理があるものだ

……

数分後

ライナ「きあい…だま！」

ライナは青緑色の球体を生成する…しかし粒子となって消える

ライナ「難しいな～」

ラッシュ「生成するのには集中力が必要だ、それほどの集中力を極めないと意味がない」

クロア「たしかに、技の生成はそれほど難しいんだ…俺が見本を見せる」

そう言うとクロアが出る

クロア「はあああぁぁぁぁぁ……」

クロアは手に力を入れる、するとオレンジ色の球体が生成される

クロア「きあいだま！」

そのままクロアは投げた、地面が爆発し、クレーターができる

クロア「集中力はがんばればなんとかなる…それを忘れるな」

ライナ「わかった、にしてもすげぇな二人とも、バトル慣れしてるようだ」

ライナはラッシュとクロアに憧れの視線を向ける

ラッシュ「まあ俺やクロアもまだまだ甘い感じもある…それでも充実というのは感じちゃいけない、バトルは楽しくても真剣にならないと勝てない、俺も色々と教えられた師がいたからな…」

ラッシュは空を見た…何処かにいるその師を

ライナ「そうなんだ…」

ぐぎゅるるる…

ライナ「腹減ったな」

ラッシュ「ちょうどいいな、飯にして休憩してから出発しよう…ファイトシティまではまだあるしな…ゆっくり行くか」

ラッシュ達は食事を取った

バトル2　ライナの特訓（後書き）

ライナ「うへぇ～ラッシュやクロアもすげぇな～」

それがこの小説主人公だからだ…クロアはレギュラーだけど

クロア「おい（汗）」

ラッシュ「まあゆっくりとな」

そんな次回は途中の町で…

バトル3　コンテスト（前書き）

ラッシュ「コンテスト？」

今回はサクラにも影響するよ

サクラ「あたしに？」

クロア「気になるな」

それじゃあ行くよ…バトル3

サクラ「行くわよ！」

バトル3　コンテスト

グラド地方のポケモンリーグに出場するため旅をしているラッシュ達、ライナを仲間に加えて最初のジムがある。ファイトシティを目指していた。

ラッシュ「ここは？」

ライナ「たしかここはグラストタウンだよ、ファイトシティの中間となる町」

４人はグラストタウンについた、リボンなどのグラデーションがよく、花も豪華に飾っている

クロア「祭りでもあるのか？」

クロアは気になっていた

ライナ「どうやらこの町でポケモンコンテストをやってるみたいなんだ」

ポケモンコンテスト、それは技をいかに華やかにかつ美しくできるかなのだ

サクラ「ポケモンコンテストねぇ～…ちょっと見ていきたいけどいいかしら？」

サクラはコンテストを見たいという

ラッシュ「そうだな、バトルとかにも参考になるから行ってみるか」
ラッシュ達はコンテスト会場へと向かった
……
コンテスト会場入口まで来たラッシュ達
サクラ「ん？これ？」
サクラは何か拾い上げた、それは青いリボンだった、そこに
「すみませ～ん！それ私のです！」
一匹のポケモンがラッシュ達のもとに駆けつける
頭は３つの突起に分かれていて右から赤・白・青となっていて、両翼は白くお腹辺りには赤と青の三角の模様がそれぞれついている。しあわせポケモンのトゲキッスというポケモンだ
サクラ「これあなたの？どうぞ」
サクラはトゲキッスに青いリボンを渡した
トゲキッス「ありがとうございます、あの…お名前は？」
サクラ「あ、名前ね、あたしはサクラ、近衛サクラよ、あなたは？」
トゲキッス「私はフィリー、フィリー・フィアスよろしくねサクラ、

そちらの3人は？」

フィリーと呼ばれたトゲキッスがラッシュとクロアとライナに視線を向ける

ラッシュ「俺はラッシュ、郷田ラッシュだ」

クロア「クロア…郷田…クロアだ」

ライナ「俺はライナ、ライナ・ラガンだよ」

ラッシュ達は自己紹介する

フィリー「ラッシュさんにクロアさんにライナさんですか…あ！私急いでいるのでそれじゃあ！」

フィリーは一目散に会場に入っていった

ラッシュ「急いでいたな？」

クロア「大会参加者なのか？」

サクラ「そうかもしれないわね…でも慌てているなんてまだコンテスト始まるまで時間あるのに」

サクラはそう言う

ライナ「中入ろうぜ」

ライナは会場に入る

ラッシュ「入るか」

クロア「ああ」

その後をラッシュ達は入った

……

コンテスト会場はグラデーションがよく、それぞれ彩りのリボンが飾られている。すると会場は暗くなった…すると

「始まりを物語る会場で…今ここにコンテストの幕が上がる…」

そこからスポットライトが一匹のポケモンに浴びる、長い耳にスタイル抜群の体をもっていて体色が茶色のポケモン、うさぎポケモンのミミロップだ

ミミロップ「ついに始まりましたポケモンコンテストＩＮグラストタウン！」

わあああああああああああああああああああああああああああああああ！！！！

会場は大歓声をあげる

ラッシュ「これほどまでポケモンコンテストは熱気あるな～」

ラッシュ達のバトルとは違い、コンテストは魅せるためのもの…サクラはなぜか真剣になっていた

ミミロップ「司会は私、ミミロップのミミアンがお送りしま～す♪」

かわいい感じにミミロップ…ミミアンが会場を虜にさせる、周囲から『かわいい～』やら『萌え～』やらの声がとぶ

ミミアン「数々のコーディネーターの中で優勝したコーディネーターにはこのグラストリボンを贈呈いたしま～す♪」

ミミアンは懐からグラス色（黄緑っぽいの）リボンを取り出した

ミミアン「なお5つのリボンを集めたコーディネーターにはグランドフェスティバルへの出場権を獲得することができま～す♪そして審査員は…」

審査員はそれぞれポケモンセンターのタブンネというヒヤリングポケモンとコンテスト審査員、そしてポケモン大好きクラブのポケモンなどの3人が審査員をやるようだ

ミミアン「それでは早速コンテストと参りましょう～♪」

コンテストが始まった

ラッシュ「いよいよか…」

ラッシュ達は真剣になってコンテストを見る

……

コンテストは1次審査、2次審査と分けられている。まず1次審査

は技をいかに魅せるかのアピールだ、それぞれのコーディネーターが自分達の技をアピールする。さらにコンテストでは団体での参加も可能となっていた。

コンテストは元々は個人のためだけだったが…時代は進み、今はチームでのコンテストが可能となったのだ、もちろんチームは個人だけでも構わないらしい…

サクラ「すごいわね…チームでの参加まであるみたいね」

ラッシュ「たしかにそうだな…コンテストはおふくろも出ていておふくろもかなりの実力だったみたいだったしな」

ライナ「へえ～ラッシュのお母さんってコーディネーターもやっていたんだ」

ライナは納得する

ラッシュ「と言ってもおふくろはこれでも元トップコーディネーターだからな…それで化粧品など美に関するのをやっているからな」

ラッシュの母でもあるリエナは元はトップコーディネーターでもあった…だがラッシュはバトルの方なので興味はないらしい、しかしサクラは

サクラ「あたし…やってみたいのよね…コンテスト…」

サクラはもじもじとする

ラッシュ「サクラ…」

すると

ミミアン「さあ！1次審査も残すところ後一人、では参りましょう！セイグリアタウン出身のトゲキッス！フィリー・フィアスさんです！」

会場からフィリーの姿が現れた

サクラ「フィリー…しかも綺麗ね」

サクラはウットリとしてしまった、フィリーは先ほどサクラが拾ってくれた青いリボンをつけているのだ

フィリー「いきますよ！まずは波動弾！」

フィリーは上空から波動弾を放つ、そこに術を詠唱する

フィリー「サンダーブレード！」

上空から雷の剣が波動弾を貫く、すると波動弾は粒子となって弾き飛んで輝きを生み出す、フィリーはそこから体を回転する。それはまるでトリプルアクセルのような感じだ

フィリー「決めます、輝く光の聖壇…セイクリッドブレイム！」

背景が教会のステンドグラスを表し、十字を刻み込む…そこから光が輝きフィリーをより美しく輝かせた、フィリーはそこから舞い降りて着地して決めた

わああああああああああああああああああああああああああああああ！！！！！！！！

観客はおおいにわいた

ミミアン「すごい！光を豊かに表現しています！」

まず審査員のポケモン…白鳥みたいなポケモン…スワンナは

スワンナ「いや～光をこうして輝かせて自身をより美しくさせるとは」

スワンナの隣にいるポケモン…ブリザードポケモンのバイバニラは

バイバニラ「いや～この美しさは好きですね～」

のんきにそう言う

そしてその隣にいるタブンネは

タブンネ「輝かしい見事な演技でした～」

と、3人とも好評価だった

……

1次審査の結果、フィリーは2次審査のコンテストバトルに進出した、サクラは急いでフィリーの元へ

サクラ「フィリー！」

フィリー「あなたは先ほどの、サクラさんでしたよね？」

控え室でサクラはフィリーの元へ駆けつけた

サクラ「あなたすごいわ！こんなことできるなんて！」

サクラはいきいきとした表情で興奮が冷めない感じだった

フィリー「ええ、でも私はまだまだ実力が甘いですわ…でも2次審査のコンテストバトルは難しいんです」

フィリーはコンテストバトルは難しいという、それはなぜかというと…コンテストバトルは普段のバトルとは違い、技をどう魅せるかによって勝利が左右となる審査なのだ、それぞれの技をどう魅せるか、相手を倒すのもそうだが一番は技を魅せる…それがコンテストバトルなのだ

フィリー「でも応援してくれてありがとうございます…私緊張していました…」

サクラ「そうなんだ…2次審査がんばってね」

サクラはフィリーを励ます

フィリー「はい♪」

フィリーは笑顔でサクラにがんばるとアピールする

バトル3　コンテスト（後書き）

サクラ「コンテスト…あたしもできるかな」

ラッシュ「まあおふくろいたらなんとかなるけどな…」

クロア「まああれでもな～（汗）」

ラッちゃんとかクロちゃん言われてるからね～

クロア「クロちゃんとか思いっきり某サイボーグロボのだけは勘弁してくれ（汗）」

さあどうだろうね（黒）

ライナ「次回もお楽しみに～♪」

バトル４　決意の絆（前書き）

さて、コンテストの続きです

ラッシュ「なんだか俺達出番ないな」

まあほぼサクラの出番が多いけどね（汗）

サクラ「それじゃあいくわよ！バトル４魅せるわよ！」

バトル4　決意の絆

コンテストもついに2次審査へと突入した

ミミアン「2次審査はコンテストバトルです！チームでのコンテストバトルも可能となっています。もちろんチーム全員のリボンが5つ集まるとグランドフェスティバルに出場することも可能となっております。それでは2次審査コンテストバトルを行いたいと思います！！」

わあああああああああああああぁぁぁぁぁぁぁぁっ！！！！！！！！！！！！！

2次審査コンテストバトル

普通のバトルとは違い、コンテストバトルは魅せるバトルでもある、いかに技をうまく魅せられるかがコンテストバトルの重要なところだ

フィリーはまず1回戦で頭にでかい赤い花のポケモン、ラフレシアと対戦

フィリーは術であるサイクロンを繰り出した、竜巻が発生しそこからさらに波動弾を何発か繰り出した。波動弾は術で作り出した竜巻に飲まれて何処から来るのかわからない、一方ラフレシアははなびらのまいで竜巻にぶつける…すると竜巻から大量の波動弾がラフレシアを襲った、それはまるで隕石が落ちたような感じだった、するとラフレシアのポイントは大幅に減った

コンテストバトルはポイント制でポイントが多い方が勝ち、または戦闘不能になった、ポイントがなくなった場合は負けとなる。これがコンテストバトルの勝利と敗北条件だ

フィリーの方に戻そう、さらにフィリーはそこから隙を見て術を詠唱した、すると今度はラフレシアが宙に浮いていた。トラクタービームという術だ、この術は重力場を発生させて相手を天高く跳ね上がらせる術だ、そこからフィリーは再び波動弾を放つ

ミミアン「おっと！ここでフィリー選手は再び波動弾を放つ、一体何をしようとしているのか！」

だが波動弾を何度も使えばそれは減点の対象にもなる。だが見た目は波動弾に見えるが実はただの波動弾ではないのだった

波動弾がラフレシアに触れると爆発が起きた、爆発した波動弾は粒子となって輝いていた。実はこれは波動弾を集めて作ったフィリー特製の波動ボムなのだ

フィリー「波動ボム完成です♪」

ニコリとフィリーは笑顔でそこから体を回転させて右手…右翼から風を集めてラフレシアに向かって放つ、エアスラッシュと呼ばれる技だ、それが波動ボムにあたり波動ボムの粒子がエアスラッシュの風にのってより輝かしくなった、同時にラフレシアにダメージが与えられる…するとラフレシアのポイントは減点される

ピピー！

ここでタイムアップがなった、コンテストバトルの制限時間は5分

ほど…だがグランドフェスティバルでは１０分となっている。

ミミアン「圧倒的な差でフィリー選手が２回戦進出です！」

わああああああああああああああああああぁぁぁぁぁぁぁぁぁっ！！！！！！

サクラ「（す…すごい…）」

サクラは呆然としていた。これがコンテストなのだと…

ラッシュ「コンテストは技とのコンボで成り立っているようだな」

クロア「それも術も加えてだ、あれだけ術を詠唱して技をよりいっそう輝きだしている」

ラッシュとクロアはフィリーを評価する。ここまで波動弾や術を使うとは思ってもみなかったのだ

それからコンテストバトルはかなり白熱としたものとなった、フィリーは巧みに術と技をタイミングよく使って相手を圧倒させる。フィリーは決勝進出、残るはついに決勝となった

……

決勝戦はフィリーと額に赤い宝石がついているポケモン、たいようポケモンのエーフィとの対決だ

ミミアン「ついに残すところ決勝へと来ました…リボンを勝ち取るのは誰なのか…トゲキッスのフィリーさん、エーフィのコサクヤさ

ん…果たして優勝するのは！！」

フィリーとコサクヤと呼ばれるエーフィがフィールドに立つ

サクラ「（いよいよね…コンテストってこんなにすごいなんて…あたし…）」

サクラは何か決意をした表情をする

ミミアン「それでは決勝戦…はじめ！！」

ついに決勝戦のまくがあがる

フィリー「いきます！ウィンドアローからさらに銀色の風です！」

フィリーは術であるウィンドアローを唱えた、フィリーの頭上から風の矢がいくつも生み出され、そこからりんぷんをのせた風が風の矢と一緒にコサクヤに向かっていく

コサクヤ「サイコキネシス」

ここでエスパー技サイコキネシスでウィンドアローと銀色の風のコンボ技を止める、これによりフィリーのポイントは減点される

フィリー「波動弾！」

隙をつきフィリーは波動弾を放つ

コサクヤ「返しますわ」

それに気づいたのかコサクヤはサイコキネシスでフィリーのコンボ技を返した、波動弾とウィンドアローつきの銀色の風は相殺された、再びフィリーのポイントが減点される

フィリー「（厄介になってきました…どうしたら…）」

フィリーは困惑する、そこから

コサクヤ「フォトンからサイコキネシス」

コサクヤは収束した光を数個生成し、サイコキネシスでフォリーに向かって放つ、だが

フィリー「光の槍よ…貫いて…ホーリーランス！」

光を帯びた槍が数発も光を貫いて相殺した、コサクヤのポイントが減っていった

フィリー「まだまだこれからです！水の波動！そしてウィンドアロー！」

フィリーは水の輪を生成して放ち、そこから頭上に風の矢を生成、風の矢は水の輪の中央へと向かった、水の波動とウィンドアローを組み合わせたコンボだ

コサクヤ「流蓮弾（りゅうれん）！フォトン！」

こちらは圧縮した水流弾と収束の光を撃ち放つ、またもや二つの技と術は相殺された

ピピー！！

ミミアン「ここでタイムアップ！！はたして勝ったのは！」

電工掲示板を見る…フィリーとコサクヤのポイントはコサクヤがリードしていた

ミミアン「白熱したコンテストバトル！優勝したのは！エーフィのコサクヤさんです！！」

わあああああぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！！！

会場は大歓声をあげた

サクラ「負けちゃったみたいね…」

サクラは落ち込む

ラッシュ「だがコンテストは厳しいものだと思うぜ？そう簡単なものでもないからな」

ラッシュはそう言う

サクラ「そうね…」

ライナ「フィリーさん残念だったね…」

……

ミミアン「それでは優勝したコサクヤさんにはグラストリボンを贈

呈いたします！」

スワンナ「おめでとう！」

スワンナがコサクラにリボンを贈呈した、彼女は嬉しく飛び上がった

ミミアン「これにてポケモンコンテストグラスト大会を終了いたしま～す！また何処かの町でお会いしましょ～う！」

こうしてコンテストは終わった

……

コンテストを終えたフィリーは溜め息をつく

フィリー「（正直私の力不足なのかもしれない…それにコンテストは一人での参加はＯＫだけどチームでの参加も認められている…でも迷ってしまう…）」

フィリーは迷った…この先自分一人でコンテストでがんばっていくのか…それともチームを組んでコンテストに参加すべきかだ

実はポケモンコンテストではチームでの参加は認められているのでグランドフェスティバルでもより多くのポケモン達とチームを組めば有利となるのだ、だが彼女は一人で参加して優勝できなかったこともあって落ち込んでいる。

フィリー「（優勝できなかったから…一人ではコンテストは無理なのかしら…）」

そんな時

サクラ「フィリー」

フィリー「サクラさん！？」

サクラが来た

サクラ「席座っていいかしら？」

フィリーはこくりと頷いてサクラはフィリーの隣に座った

サクラ「あたしね…フィリーのコンテストや他のコーディネーターのを見て…こんなに美しくできるなんて…あたしもやってみたいと思った…でも負けたらそれは辛いかもしれない…でもねあたし…やりたいの…そのためには」

サクラはフィリーの手を優しく掴む

フィリー「！？」

サクラ「フィリー、あたしにコンテストの事色々教えてほしい…だから私達と一緒に行かない？あたしもコンテストはやりたかったから」

サクラは自信を見せる、それは自分がコンテストという大きな生きがいを見つけたのだから…サクラは最初、目的などなかった…ただラッシュに着いていってさらに自分の技や術を磨くために旅に同行している。そしてコンテストはそんなサクラにきっかけをつくったのだ

フィリー「でも私…」

サクラ「負けても夢をあきらめない…あたしも目標はできたわ…でもここで逃げていちゃ…夢をあきらめたことになるわ」

フィリー「……」

フィリーの目から涙が零れ落ちる

サクラ「あたし…たとえ負けてもコンテストを楽しくできるようにしたい…そして全力で勝ちたい…そう思ってる、あたし自信できることをやりたいの…」

するとフィリーは

フィリー「サクラさん…私もここで落ち込んでるわけにはいかないですね…なら私もあなたとチームを組んで一緒にがんばりましょう！あなたの思う魅せることを」

そこから

ラッシュ「話はついたか？」

ライナ「これで仲間が増えたね」

ラッシュ、クロア。ライナの3人だ

クロア「これでなんとかなったな…」

サクラ「ええ、それじゃあファイトシティに行きましょう！」

フィリー「ファイトシティですね…みなさんよろしくお願いします！！」

フィリーは頭を下げた

ラッシュ「いや頭下げなくてもいいぜ」

クロア「もう仲間なんだから」

フィリー「はい！」

フィリーはしっかりと返事した、こうしてフィリーを仲間に加え一同はファイトシティを目指す！！

バトル４　決意の絆（後書き）

フィリー「みなさん初めまして、新たに仲間になったフィリー・フィアスです」

ライナ「ねえねえ作者さ～ん、俺思うんだけど仲間とかコンテストとかこれってどうなのかな？」

あ～それね、それぞれコンテストのチームとポケモンリーグのチームへと分けるよ、つまり

バトル

・ラッシュ

・クロア

・ライナ

コンテスト

・サクラ

・フィリー

となるよ

ライナ「へえ～」

ちなみにフィリーのイメージＣＶは井上喜久子さんだよ

サクラ「たしかテイルズオブデスティニーのフィリアとアニメのポケモンでメリッサさんとトゲキッスの声だったわね？」

そう、トゲキッスだから、それに年齢は１７歳だからね？

フィリー「はい♪１７歳です♪」

サクラ「ここで言わないの（汗）」

クロア「この先思いやられそうだ（汗）」

ちなみにまだライナのイメージＣＶ決まってないけどね（汗）

ライナ「早く決めて～！！」

慌てるな（汗）

ラッシュ「慌てても何も解決しないぞ」

ライナ「ごめん（汗）」

バトル5　バカでアホな3人組登場（前書き）

ラッシュ「なんかどこぞのあいつらみたいなタイトルだな」

まああいつらポジションのキャラ達が登場します

ラッシュ「そんじゃあバトル5」

クロア「ぬぅん！！」

バトル5　バカでアホな3人組登場

ラッシュ達はグラストタウンでトゲキッスのフィリーを仲間にして
ファイトシティを目指して旅をしていた。途中彼等は休憩をしていた

ラッシュ「とりあえずこんなもんだな」

小型の折畳み式テーブルの上にはおいしそうなごちそうがたくさん
並んでいる

ライナ「早く食おうぜ！」

ライナは待ちきれない様子だ

フィリー「まあまあ、まずは手を洗ってからにしましょう」

ライナ「ちぇっわかったよ～」

ライナはしぶしぶと近くの川へ手洗いに

サクラ「木の実足りないわね、フィリーとラッシュ、手伝ってくれ
ない？」

ラッシュ「わかった」

クロア「俺も手を洗いに行く」

それぞれ分かれて行く、それを見ていた者達がいた

「しめしめ、チャンスだよお前達」

「俺達に恵んできた天の恵みだ～（泣）」

「姉貴、奴らが帰る前に食料を取りましょう」

それは3匹のポケモンだった、1匹は頭に骨が刺さっていてかんざしみたいな感じの鳥のようなポケモン、1匹は濃い赤紫と黒のしましまの体色に両目の周りにサングラスのあとがついているような黒いものがついていて二足のワニのようなポケモン、そしてもう1匹は腹に丸い刃が二枚つけていて目つきが悪いポケモンだ

順番にバルジーナ、ワルビアル、キリキザンだ

バルジーナ「お前達～今のうちに食料を奪うんだよ！！」

ワルビアル・キリキザン「ラジャー！！」

3匹はできたての料理を早速食った・・・そこに

クロア「おい、何してるんだテメェ等」

ギクッと3匹は声の方を振り向いた、そこには手を洗ったはずのライナとクロアがいた、さらに

ラッシュ「どうも誰かの気配を波動で感じたと思ったら、やっぱりな」

木の実取りに行ったはずのラッシュ、サクラ、フィリーもいた

バルジーナ「ば、バカな！？どうして早く帰ってきたんだい！？」

クロア「俺たちが気付いていないと思ったか？」

パキポキとクロア両腕の骨が鳴る

ラッシュ「お前達は何者だ！」

ラッシュが3人を指さしする

バルジーナ「フッフッフッ・・・バレちゃ仕方ないね、あたい達は！」

3人はポーズを決める

バルジーナ「黒き一輪のバラ、バルジーナのルコツ！」

ワルビアル「ワルビアルのビオス！」

キリキザン「キリキザンのクロツキ！」

3人『3人合わせて！我等！闇の翼！』

シャキーン！と決めポーズを決める闇の翼の3人

5人『闇の翼？』

5人は同時に詠唱した

ルコツ「そう！あたい達は盗みをする盗人3人組だよ～！」

ビオス「どうだ！恐れ入ったか！」

ルコツというバルジーナとビオスと呼ばれるワルビアルの言葉に5人は

5人『全然』

闇の翼『だあーー！！』

闇の翼3人はずっこけた

ルコツ「おのれ！あたい達をコケにしたな！！悪の波動！！」

ビオス「俺達を怒らせたこと後悔させてやる！！かみくだく！！」

クロツキ「食らえ！つじぎり！！」

闇の翼3人はラッシュ達を襲う…だが

ラッシュ「殺劇舞荒拳（さつげきぶこうけん）！」

クロア「黒炎拳（こくえんけん）！」

サクラ「フォトン！」

ラッシュは神速してクロツキに連続で殴り、クロアは黒い炎を纏った拳でビオスを殴り、サクラは早い詠唱で収束した光の術がルコツを襲う

闇の翼『ぎゃあああああああああああああああっ！！！！！！！！！！！！！！！？』

闇の翼の3人は吹っ飛んで宙に飛んだ

ルコツ「キ～！！覚えてな！！」

ビオス「また会った時にはリベンジしてやるからな！！」

クロツキ「俺達闇の翼の名を覚えてもらうからな！！」

闇の翼『あ～れ～！！』

キランと闇の翼の3人は星となった

クロア「アホだこいつら（汗）」

クロアは呆れたように言う

ライナ「それよりあいつらに食われちまったしどうすんだよ～！」

ライナは文句を言うが

サクラ「それならちょうど木の実集めたからそれでもう一度作るわ、ライナ、あんたも手伝いなさい！」

ライナ「え～！」

ライナはめんどくさそうな顔をするが

サクラ「自分だけ怠けるなんてそうはいかないわよ」

サクラはライナを睨みつける

ライナ「う～わかったから睨まないで～（泣）」

女は怖いものだ…ライナは手伝うことになった

ラッシュ「さて、俺もやるか」

ラッシュも料理する準備をする

……

一方

ルコツ「あのリザードンズ～」

ビオス「次に会った時はからなず」

クロツキ「復讐してやる！」

ボロボロの闇の翼の３人は崖の上にいた

ビオス「それより姉貴…姉貴は空飛べるから大丈夫だが俺達どうやってここから脱出すればいいんスか～（泣）」

ルコツ「自分達でなんとかしな！」

クロツキ「ひどいですよ～姉貴～（泣）」

空を飛べない二匹は涙目になる

闇の翼はこの後どうなるか…それはみなさんのご想像にお任せします

バトル5　バカでアホな3人組登場（後書き）

ルコツ（バルジーナ）「作者！！よくもあたい達をこんな目に合わせたね！！（怒）」

ビオス（ワルビアル）「あいつら強すぎじゃねぇか！！（怒）」

クロツキ（キリキザン）「どうしてくれる！！（怒）」

え～こいつらはマジで前の3人組みたいなポジションです。変わってきてむなしくなったのでこうしました

闇の翼『おい！（怒）』

まあ闇の翼とかは本当はテイルズ定番の漆黒の翼にしようと思っていましたが…そうなると原作的にも事情的のため闇の翼にしました…まあこいつらは出番あるたびにバカとアホなことになるので（笑）

闇の翼『ふざけるな！！（怒）』

それでは次回もお楽しみに

闇の翼『おい！k』←強制終了

バトル６　天才魔術師少女（前書き）

今回は新たなキャラ登場です。

ラッシュ「タイトルからして♀だな」

そんなバトル６

ラッシュ「行くぜ！」

バトル6　天才魔術師少女

ラッシュ達5人は最初のジムがあるファイトシティへと向かっている。その途中とある町へと訪れた

フィリー「ここは魔道都市アルシオンという町なのですが…かなりのものですね」

アルシオンは通常魔術の町と呼ばれていてここでは魔術の研究や魔術の歴史などが豊富に備わっている。この世界には術は魔術でもあるためポケモンの中には術が使える者もいる。ラッシュやサクラ、クロアやフィリーは術が使える…しかしポケモンやそのポケモンの魔力のありなしによっては術が使える、使えないポケモンもいる

ラッシュ「まるで図書館みたいだなここは…」

そう、辺りを見渡すとたくさんの本棚があり、さらに本もかなりの数を占めていた

ライナ「ところでここで何するの？」

ライナの問いにサクラは

サクラ「実はここに天才魔術師がいるって聞いてたの…その魔術師に会って教えてもらいたいのよ」

どうやらサクラは用があるらしい

ラッシュ「術を教え鍛えてコンテストでうまくできるようにするた

めか？」

サクラ「そうよ」

サクラは頷いた

フィリー「問題は家が何処にあるかですね…あ、すみません」

フィリーは白いローブをつけた顔がわからない者を呼び止める

「なんだ？」

顔は見えないが声からして♂だろう

フィリー「ここに術を使える天才魔術師がいると聞いたのですが」

「！？」

ローブの男は驚く

「な！？や…奴だと！？」

ラッシュ「何か知っているのか？」

ラッシュは問いただすが

「や…奴とは関わるな…」

クロア「どういうことだ？」

「あいつが何をするかわかったもんじゃない！そんなに行きたいのなら…この先の広場から下に行ったところに小屋がある…あんな奴と関わるのなら俺は知らないぜ」

そう言うとローブの男は去った

ライナ「何なんだ？」

ラッシュ「さっぱりだな…何かあるだろうな」

サクラ「行ってみましょう」

ラッシュ達は天才魔術師がいる小屋へと向かった

……

赤い長三角の屋根とクリーム色のレンガ作りの壁…ここが天才魔術師がいる小屋だろう

ラッシュ「にしても狭そうだな」

ラッシュとクロアは身長が高いため入れるかどうかわからない

サクラ「ツベコベ言わずにいるかどうか確認するわよ」

サクラはドアを叩く

サクラ「ごめんくださ～い」

シ～ン

声が聞こえない

サクラ「留守なのかしら…」

すると

サクラ「あら？開いてるわね？」

ライナ「留守じゃないんじゃない？あがってみようぜ」

ライナが入る

ラッシュ「お、おいライナ！」

クロア「いきなり入るのかよ（汗）」

サクラ「もう！仕方ないわね！」

フィリー「ごめんなさ～いお邪魔いたします」

フィリーは陽気に挨拶して入った

サクラ「ちょっと！？」

続けてサクラ、ラッシュ、クロアが入った

……

ライナ「中は広いね」

フィリー「でもこれ、ほとんどわからない数式とかもありますね」
そこにはラッシュ達にはわからない数式などが書かれていた、さらに本も積み重ねていた
クロア「ほとんど本とかが多いな…どれも魔術に関しての本だ」
どうやらほとんどの本は魔術に関しての本ばかりである
サクラ「すごい！魔術の事色々かかれてる…！？」
サクラはその中の一冊を読んでいる
ラッシュ「誰もいないことだから行くぞ」
ラッシュ達が去ろうとしたその時！
ガタン！
ライナ「え！？何っ！？」
ラッシュ達は辺りを見わたした、すると山積みされた本から何かがうごめいていた
ラッシュ「何かいるぞ！」
ラッシュは山積みの本を見る、すると山積みの本からローブを纏ったポケモンが出てきた、顔は隠れていてどんなポケモンかわからないが体格からすると小さいようだ

ライナ「うわっ！？」

ライナは驚いてひっくり返る

ライナ「あ…あ…」

ライナはビクビクする

ローブのポケモンがラッシュ達に向く

「うるさい…」

するとローブのポケモンの周囲が魔方陣が纏い、魔術のエネルギーが放出される、これは詠唱中のようだ

「泥棒は…」

ライナ「ちょっ！？待て待て！！？」

ラッシュ達はその場から離れる

「引っ込んでろ！！」

術が発動した、火炎弾がライナを襲う

ライナ「うわああぁぁぁぁーーーーーっ！！」

ライナは黒コゲになった

ライナ「ゲホゲホ！酷でぇ～よ（泣）」

するとローブの姿のポケモンの顔があらわになった、淡いピンクの体色に額に赤い宝石をはめている、たいようポケモンのエーフィだ

フィリー「あ、あの」

エーフィ「なによ？」

エーフィはツンツンした態度で言う

フィリー「突然勝手に入ってきてしまい申し訳ありません、私達はあなたの噂を聞きつけて来たのです。だから私達は泥棒に来たわけじゃないんです」

フィリーがそう説明する

エーフィ「なるほどね、じゃああんた達は泥棒で入ったわけじゃないのね」

ラッシュ「ってかな～普通ドアの鍵は閉めるだろ（汗）だったら声かけてくれればいいじゃねぇか」

ラッシュはそのことでエーフィに言う

エーフィ「ああ、そうだったわね、あたしが悪かったわ」

エーフィが謝る

ラッシュ「いや俺達も勝手に入ったのも悪かった」

ラッシュも謝る

エーフィ「あたしはあんたって名前じゃないわ、ルビ＝カーバニよ」

ルビと呼ばれたエーフィの少女がそう言う

サクラ「ねえ、あなたって天才魔術師よね？」

サクラがルビに言う

ルビ「そうよ、何か用かしら？」

サクラ「実は…」

サクラがルビに説明した

ルビ「へえ～コンテストで術を美しくねぇ～あたしのは攻撃術だからそこまでコンテストみたいなことは考えていないわ」

サクラ「そうだけど…あたしは術がまだ未熟…だから教えてほしいの、あたしも他の術を学んでグランドフェスティバルで優勝したいの…だから」

サクラは必死に訴える

ルビ「まあ術を教えることは出来るけど…生憎あたしはとある遺跡に調査しに行くのよ」

クロア「調査？」

「ええ」とルビは言う

ルビ「まああんた達強そうだからあたしの護衛としてついて行ってもいいわよ」

ラッシュ「それならいいが、あんたは術とかで戦えるんだろ？」

ルビ「まああたしはこれでも天才魔術師少女だからやれるわよ」

ルビは戦えるらしい

サクラ「それじゃあ行きましょうよ！その遺跡って何処？」

ルビ「そうね、ここから西に行ってすぐのところにあるわ、行きましょう」

ラッシュ達はルビを加えて遺跡の調査へと向かった

バトル６　天才魔術師少女（後書き）

ライナ「う～オイラなんかなんでやられるの（泣）」

まあライナ、時にはこういうのがあるもんだ

ライナ「いや納得できないって！？」

ルビ「うるさいわね！また焼かれたい！！（怒）」

ライナ「ごめんなさいごめんなさいごめんなさい！！（泣）」

バトル7　遺跡調査（前書き）

今回少し重要な事にもなるものが出ます

ラッシュ「重要なもの？」

ルビ「作者のバカっぽさに呆れるわ」

ツンデレは黙って（汗）

ルビ「ツンデレじゃないわよあたし！（怒）ってか遅いわよ（怒）」

色々あんだよ（汗）

ルビ「まあいいわ、それじゃあバトル7見なさいよ」←ツンツンした態度で

バトル7　遺跡調査

ラッシュ達はルビという天才魔術師少女に出会い、遺跡調査の護衛を任された、アルシオンから西にあるセイグ遺跡にたどり着いた

セイグ遺跡

ルビ「ここよ」

ラッシュ「すごいな」

遺跡はコケが覆い、さらに柱が多くたっている

ルビ「ここセイグ遺跡は光術が盛んになったことで有名なのよ…あたしは光系の術は使えないけど使える研究をしているのよこれが」

ルビは呆れたように言う

サクラ「光系の術ってここが原点でもあるのね」

ルビ「そうよ、光系の術は回復術が使えるポケモンなどが使用できる術、まああんたはできるそうだけどね」

ルビはサクラをじっと見てから先へと進んだ

フィリー「たしかに光系の術は神と呼ばれしポケモンも使う術などですもの」

ルビ「そうね、まあ神と呼ばれたポケモンはそれぞれの世界の監視をしてるとかもしてるわ」

神と呼ばれたポケモンは世界を監視しているようだ…ラッシュやクロアなら一人思い当たる人物が

ラッシュ「（ゼウス校長とか学校長だからしていそうだな（汗））」

そう、卒業したポケハン学園の学校長でもあるあのアルセウスの事を

ゼウス「クシュン！誰か私を噂しているのでしょうか？」

一人校長室でクシャミをした一匹の神と呼ばれしポケモンの一人

ラッシュ「とりあえずいくか」

ライナ「ワクワクするな～♪」

ライナは探検気分でワクワクしている。そんなライナを無視してラッシュ達は遺跡内へと入っていった

……

中は広々としていた。床は石畳とレンガ構造で所々に光を放っている

ルビ「光が放っているってことは少しの魔力で光を放出してるのよ」

ルビは分析しているためこの遺跡のことを説明している。つけたしで「あたし一人で充分なのに」と言った

サクラ「ねえ、ここって魔物もいるようだけどルビ一人で大丈夫なの？危険なんじゃない？」

ルビはサクラの言葉に振り向く

ルビ「何かを得るためにリスクがあるのは当たり前じゃない、たとえ危険でもあたしはいくわよ」

ラッシュ「勇気あるな」

ラッシュはルビにそう言う

ルビ「あんたほど強い奴なら魔物いても一発で蹴散らしそうね…そこのガキもだけど」

ライナの事を指さす

ライナ「俺！？」

ライナは指をさされ動揺する

ルビ「バカっぽ～い」

ルビは呆れるようにライナに向けて言った

クロア「進むぞ、魔物は倒しておかないとな」

クロアは少し気合はいったように先に進む

フィリー「気をつけましょう」

フィリーの注意に頷いてラッシュ達は先へと進んだ

……

ラッシュ達は遺跡内の十字路につく、そこから魔物が現れた

ラッシュ「はさみうちか！」

ルビ「ならやるわよ！」

ルビは術を詠唱した

ルビ「超能力の極限よ、今こそ集え！サイコリング！」

魔物の周りから光のリングが魔物を拘束した

サクラ「聖なる炎よ、燃え上がれ！フレイレイム！」

光の炎が魔物を燃やしていった

ルビ「あんた中々のものね」

サクラ「あたしもまだまだよ」

サクラはそう言う

ルビ「まあそれなりに術を使うなんて、さて進むわよ」

ラッシュ「まあ助かったな」

クロア「ありがとな」

ラッシュとクロアはお礼を言うが

ルビ「当然のことをしたまでよ、別にお礼言うほどではないわよ」

ツンとした態度で歩いていった

ラッシュ「（素直じゃないな）」

ラッシュは苦笑いしながら歩いた

……

フィリー「奥まで来ましたね」

ルビ「ここがセイグ遺跡の最深部よ」

最深部は神と呼ばれしポケモンの像が3つ、そして真実と理想を司るポケモンの像が2つもあった

フィリー「これはディアルガ、パルキア、アルセウス、それにレシラムにゼクロムの像ですね」

ルビ「そう、今でも各地方に散らばっているのよ伝説のポケモンのこの五体は」

それぞれの伝説のポケモンは各地方にいるらしい

ラッシュ「（やっぱゼウス校長も考えられるな（汗））」

ラッシュはやはり一人思い当たる人物の事を考えている

ドゴーン！

クロア「なんだ？」

爆発音が響いた、五体の像の中心の壁が壊されていた。そこからロープを纏ったポケモンが出てきた、だがどういうポケモンなのかわからない、そのポケモンの手には

ルビ「あっ！あれはこの遺跡に伝わる光術を使える伝説の光の宝玉！」

ルビがロープのポケモンを足止めする

「な、なんだテメェは！」

ルビ「ちょっと！それをどうするつもり！返しなさいよ！」

ルビは術を詠唱する

「捕まってたまるか！」

ロープのポケモンが懐から煙玉を取り出して地面に叩きつけるように投げつけた

ボンッ！と音が響いてたちまち煙が立ち込める

ライナ「み、みえねぇ！」

ラッシュ「あっちに逃げたぞ！」

ラッシュがローブのポケモンを追いかける

ルビ「ちょっと！」

サクラ「大丈夫よ、ラッシュは波動使えるから煙でも見えるから」

サクラが説明した

ルビ「そういうことね」

ルビは納得した、煙が収まるとラッシュとローブのポケモンの姿はなかった

クロア「とにかくラッシュとローブの野郎を追いかけるぞ！」

残ったメンバーは急いでラッシュを追いかけた

……

セイグ遺跡入口

ラッシュ「待て！」

「チッ！追いかけやがった！？だが俺はそう簡単に捕まらない！」

「それはどうかな？」

「！？」

ローブの男は吹っ飛んでしまった…誰かの攻撃によって

「ぐわっ！？」

ローブの男の手から光の宝玉があさっての方向に飛んでいった

ラッシュ「おっと！」

ラッシュはすかさず宝玉をキャッチした

「まったく、追いかけてみればこんなことになっていたとはな」

ラッシュ「！？」

ラッシュは驚いていた。なぜなら…

「久しぶりだなラッシュ」

それはラッシュが知っている人物…ラッシュの目の前には…目つきが鋭く、黄緑の体色をして葉っぱの尻尾をしたポケモン…みつりんポケモンのジュカインがいるのだから

ラッシュ「ゼ、ゼルスさん！？」

ラッシュはかつての師に再び再会した

バトル7　遺跡調査（後書き）

ラッシュ「まさかの」

そうあのキャラが登場だよ、次回はそのキャラなどを加えての話となります

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3363y/

バトルオブブレイズ〜ラッシュ達の旅〜

2011年12月15日23時52分発行